

平成28年度 事業計画

事業実施方針

日本銀行北九州支店は、管内金融経済概況で、「北九州・京築地区の経済は、緩やかに回復している。生産をみると、新興国経済の減速を受けて海外向けの一部で弱めの動きがみられている一方、国内向けでは自動車関連や住設機器で持ち直しの動きがみられることから、全体としては横ばい圏内で推移している。輸出は、増勢が一服している。設備投資は、堅調な収益動向を背景に投資に前向きな企業が多いものの、一部に用地・人材確保の困難化や計画進捗の遅れの影響がみられることから、全体としては横ばい圏内で推移している。個人消費は、天候の影響から一部に弱めの動きがみられるものの、所得環境の改善を背景に、全体としては持ち直している。住宅投資は持ち直しつつある。この間、公共投資は緩やかに減少している。」としている。

こうした経済情勢の下、北九州港の平成27年海上出入貨物取扱量は、約1億トン(推計:以下同じ)で、前年と比較してほぼ横ばいの見込みである。国別の輸出上位3か国では、韓国、中国、台湾ともに増加している。輸入では、オーストラリア、ブラジルが増加し、中国は減少している。一方、コンテナ貨物取扱量は約50万TEUで、前年より増加する見込みである。

今後も、景気の回復傾向が北九州港の活性化に結びつくよう、北九州港一丸となった一層の取組みが求められる。

当協会は、一般社団法人として法令に従い一層適切な法人運営に努めるとともに、北九州市、会員企業、海運港湾関係団体と協力し、また、関係行政機関の指導支援を得ながら、北九州港の振興活動や市民PR事業を積極的に推進し、北九州港ひいては地域経済発展に寄与していく所存である。

そして、平成28年度は、以下の方針で様々な振興活動等に取り組んでいく。

第一に、北九州港の振興対策として、みなと振興懇談会などを開催し、港湾管理者等との意見交換により企業や市民の立場から改善案等を提案する。

第二に、北九州港の機能発揮と利用促進のため、啓発宣伝活動、ポートセールス事業に積極的に取り組む。

第三に、北九州港に関する最新情報の発信や物流・経済に関する研修会の開催、会員交流の場の提供等、会員向サービスの向上に努める。

第四に、「未来へきれいな海・海岸」を引き継ぐために、北九州市・港湾関係団体と協力して港や海岸周辺の清掃及び啓発活動を実施する。

事業計画 事業名に続く（ ）内は実施予定時期

1 振興対策事業

北九州港の整備及び振興対策について、企業や市民の立場から施策を提案する。

(1) みなと振興懇談会（1月）

地域経済の発展に寄与するため、北九州港及び北九州空港の整備や振興対策、今後の課題などについて、当協会正副会長と北九州市港湾空港局幹部職員で意見交換等を行う。

(2) 北九州港港湾調査データ作成業務（通年）

港湾事業者等から提供された申告書を規定フォームへ入力し、統計法に基づく港湾統計データを集計する。（北九州市からの受託事業）

2 啓発宣伝活動事業

年間を通して、様々な啓発宣伝活動を実施する。

(1) 北九州港セミナー（10月）

北九州港のPRと一層の利用を促進するため、荷主や船社などの北九州港のユーザーを対象に首都圏等でセミナーを開催する。

■ 主催 北九州港航路集荷対策委員会、当協会ほか

■ 開催地 東京等

(2) 海外ポートミッション

海外の港湾施設を調査研究するため、会員を対象に視察研修を実施する。

■ 訪問地 海外の先進主要港湾等

■ 参加者 会員

(3) 記念品の製作・頒布（通年）

北九州港のPRを促進するため、北九州港のシンボルマークやマスコットキャラクター「スナQ」をデザインした記念品等を製作し、イベント等で頒布する。

■ 頒布品 付箋、缶バッジ等

(4) 海外ポートセールスミッションへの参加

北九州港のPRと航路誘致のため、海外の主要船社や商社などを訪問する海外ポートセールスミッションに参加する。

■ 主催 北九州港航路集荷対策委員会

(5) 歓迎訪船（通年）

歓迎のメッセージを伝えるとともに、北九州港をPRするため、初入港した船舶や新規航路の第一船などを対象に歓迎訪船を実施する。（北九州市との共同事業）

(6) 北九州ポート・アテンダントの活動（通年）

北九州港をPRするため、各種式典やセミナー、イベントなどの司会や歓迎訪船の花束贈呈など北九州ポート・アテンダントの活動を行う。

(7) 北九州港オリエンテーション（4月）

港湾業務の基本を学ぶため、会員企業の新入社員等を対象に、港湾や貿易などに関する研修講座と太刀浦コンテナターミナル等の港湾施設の見学を実施する。

(8) 港湾整備事業説明会（6月）

北九州港に関する情報を発信するため、各年度の北九州港の整備事業や将来計画などについて、会員を対象に国と市が直接説明する事業説明会を開催する。

■ 講 師 国土交通省九州地方整備局、北九州市港湾空港局

(9) 港湾セミナー（1月）

世界の港湾の最新情報や物流動向、関連する経済情勢などを学ぶため、会員と市民を対象に講演会を開催する。

(10) 北九州港・みなとまちづくり事業（通年）

北九州港の役割や海辺の魅力などを市民に周知するため、様々なイベントを通して積極的な情報発信を行う。（北九州市からの受託事業）

①船舶公開

海や港、船についての理解を深めるため、独立行政法人海技教育機構（予定）「日本丸」を招き、市民を対象に船内を公開する。

②北九州港クルージング事業

クルージングを楽しみながら北九州港について学ぶため、市民を対象に、小型船舶を利用して、ひびきコンテナターミナルや風力発電施設などの港湾施設を海から観覧学習する。

③クルーズ船おもてなし事業

北九州港へのクルーズ船寄港定着化を図るため、岸壁で歓迎行事等を実施する。

(11) クルーズ船寄港定着化事業

北九州港へのクルーズ船寄港定着化を図るため、九州クルーズ振興協議会等に参加し、活動を行う。

(12) みなと見学会

物流拠点としての港と日常生活のつながりを理解するため、市民を対象に倉庫等の見学会を開催するとともに、太刀浦コンテナターミナルの見学ガイドを行う。

(13) 「海の日」協賛会の行事（7月～10月）

海事海洋思想を普及するため、関門港ポート天国や海事功労者表彰式典、海の写真展、絵画コンクールなどの行事を開催する。

当協会は、「北九州・海の日協賛会」の事務局を担当するとともに、次の事業を実施する。

- ① ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦
- ② 花火大会（くきのうみ花火大会、海峡花火大会）への協賛等

(14) 海の日・海峡クルージング（8月）

北九州港の役割や海辺の魅力などを周知するため、市民を対象に、大型フェリーを利用して、関門海峡の体験航海を実施する。

当協会は、実行委員会の事務局を担当する。

(15) 定期刊行物の発行（通年）

北九州港に関する情報発信とPRのため、会員等を対象に定期刊行物等を発行する。

- ① 機関誌「北九州港」 年1回 800部
- ② 北九州港ニュース 年6回（偶数月） 各800件（オンライン）

(16) ホームページ（通年）

広く北九州港に関する情報発信とPRのため、ホームページを更新管理する。

3 港湾関係共益事業

船員、港湾労働者をはじめ海事・港湾関係者のための福利厚生事業を実施する。

(1) 戸畑船員サービスセンターの管理運営

海事関係者の利便性の向上を図るため、戸畑船員サービスセンターを管理運営する。

また、今後の修繕等に備え、特定資産である「船員サービスセンター修理積立資産」を積み増す。（原資は、支給対象者がいないため「退職給与引当資産」を取り崩す。）

(2) 港湾振興協会等事務連絡会（11月）

港湾振興に関する共通課題の検討や情報交換などを行うため、国内主要港の港湾振興団体の連絡会に参加する。

■ 参加港 東京、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、北九州、博多

(3) 役員・会員交流サロン（9月～10月）

当協会の役員相互及び会員相互の交流を促進するため、企業視察や交流会を通じて親睦を深める「役員交流サロン」及び「会員交流サロン」を開催する。

(4) 国際ビジネス支援事業（通年）

国際化に対応する人材を育成するため、会員を対象に貿易や語学などの講座、国際法務セミナー等の研修会を開催する。

(5) 新年賀詞交歓会（1月）

新年を祝し、北九州港の発展を祈念するため、海運・港湾7団体（関門港運協会、小倉地区港運協会、洞海港運協会、八幡港友会、九州水曜会、門司エーゼント会、当協会）の共催で賀詞交歓会を開催する。

4 港内美化事業

未来へきれいな海、海岸を引き継ぐため、港湾関係団体と共同で清掃活動等を実施する。

■ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦（再掲）など

5 駐車場事業

海運・港湾事業従事者や観光客などの利便を確保するため、北九州市から未利用地等を借地し、有料駐車場として管理運営する。